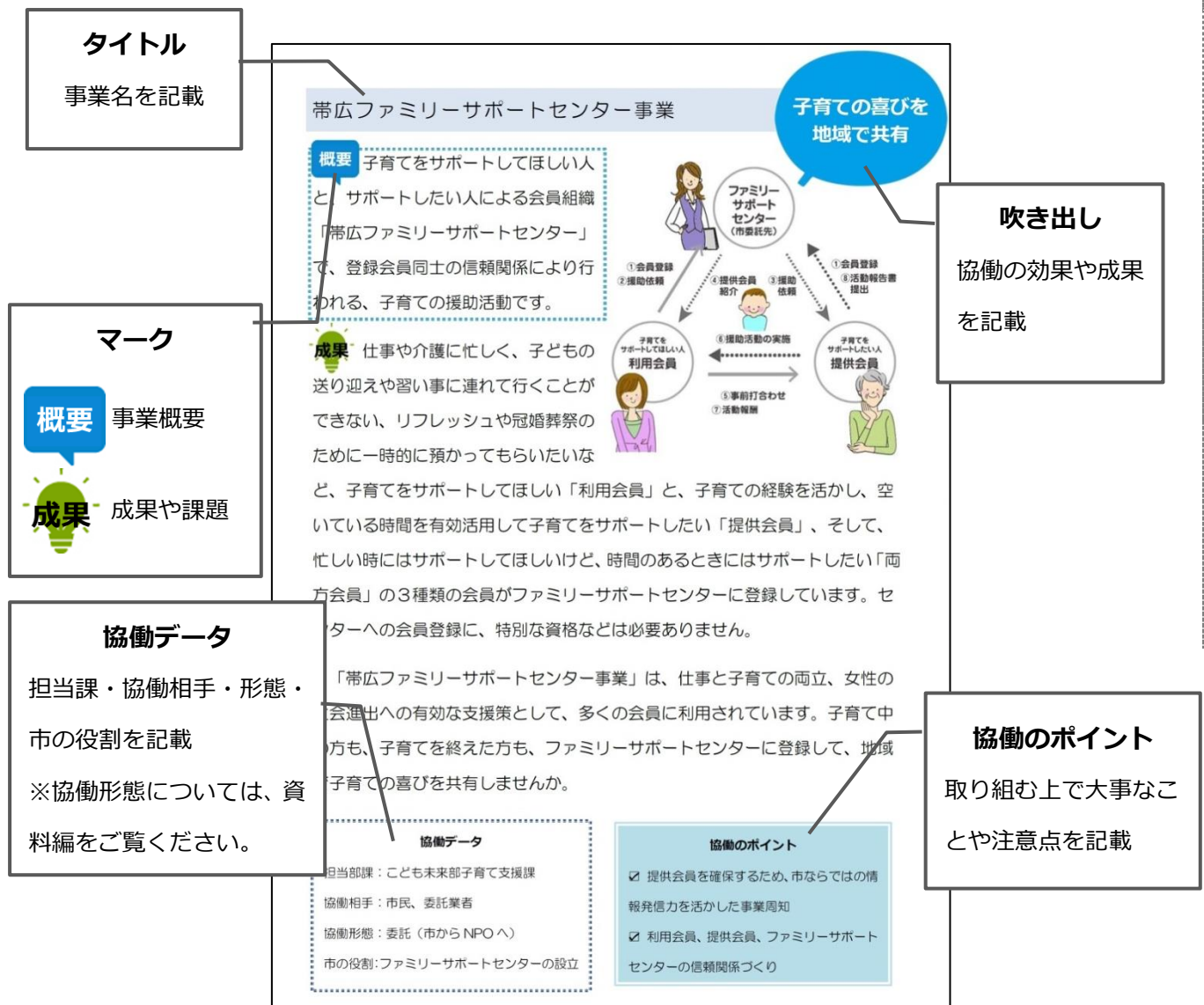


第5章 身近なヒント！協働・連携取り組み事例

協働の大切さはわかったけど、新しいことを始めなければいけないの？答えはNOです。これまで実施してきた市の事業や、市民活動団体が独自に行ってきたことの中にも、協働することで大きな効果を得られるものがあります。

ここからは、「市民協働」のイメージをもっと具体的に膨らませるため、帯広市ですでに行われている、市民協働の取り組みの一部を紹介します。

取り組み事例の見方



1 きょうどうってなに？

2 ハンドブックができるまで

3 協働の基本

4 協働・連携をすすめるために

5 身近なヒント！取り組み事例

おわりに

帯広ファミリーサポートセンター事業

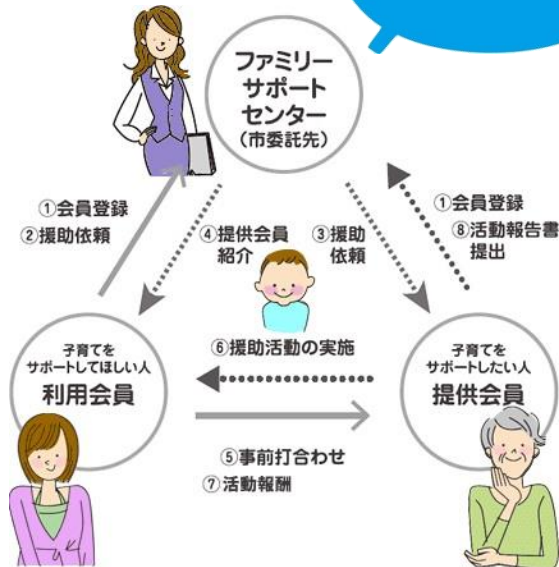
子育ての喜びを
地域で共有

概要 子育てをサポートしてほしい人と、サポートしたい人による会員組織「帯広ファミリーサポートセンター」で、登録会員同士の信頼関係により行われる、子育ての援助活動です。

成果 仕事や介護に忙しく、子どもの送り迎えや習い事に連れて行くことができない、リフレッシュや冠婚葬祭のために一時的に預かってもらいたいな

ど、子育てをサポートしてほしい「利用会員」と、子育ての経験を活かし、空いている時間を有効活用して子育てをサポートしたい「提供会員」、そして、忙しい時にはサポートしてほしいけど、時間のあるときにはサポートしたい「両方会員」の3種類の会員がファミリーサポートセンターに登録しています。センターへの会員登録に、特別な資格などは必要ありません。

「帯広ファミリーサポートセンター事業」は、仕事と子育ての両立、女性の社会進出への有効な支援策として、多くの会員に利用されています。子育て中の方も、子育てを終えた方も、ファミリーサポートセンターに登録して、地域で子育ての喜びを共有しませんか。



協働データ

担当部課：こども未来部子育て支援課
協働相手：市民、委託業者
協働形態：委託（市からNPOへ）
市の役割：ファミリーサポートセンターの設立

協働のポイント

- ☑ 提供会員を確保するため、市ならではの情報発信力を活かした事業周知
- ☑ 利用会員、提供会員、ファミリーサポートセンターの信頼関係づくり

子どもの居場所づくり事業

概要

放課後や週休日などに、小学校の空き教室や特別教室などを活用し、児童に自由遊びを中心として、季節行事や工作・調理などの体験活動を提供する事業です。

この事業は、市、学校、地域住民やNPOなどの実施団体といった3者が

連携しながら実施しており、ひとりっ子や共働き家庭の増加、家庭用ゲーム機の普及など、子どもたちを取り巻く生活環境の変化や、集団行動やコミュニケーションの苦手な子どもも増加といった問題を解決し、地域住民や、年齢・学年の違う児童同士が交流できる場所をつくるためスタートしました。



成果

主体が地域ボランティアとなることで、地域の人材育成や、活性化、教育力向上につなげることも目的としています。現在は市内の全小学校で実施しており、実施頻度は月1回から週に数回、実施時間は1回につき1時間から3時間と、地域の状況によって異なります。一緒に活動していただけるボランティアスタッフを募集しています。一度活動の様子をご覧になってはいかがでしょうか。

地域で守る 子どもの居場所



協働データ

担当部課：こども未来部青少年課
 協働相手：地域住民、NPO 法人
 協働形態：事業協力
 市の役割：実施校区の決定、保険手続きや経費負担、研修の実施、事業 PR

協働のポイント

- ☑ ボランティアやコーディネーターなどの人材確保のための、市ならではの情報発信力を活かした事業周知
- ☑ 地域住民ならではの遊びのアイデアを取り入れる

20 歳からのバランスご飯教室

概要

20 歳から 40 歳代を対象に、和食を中心に旬の地場産食材を使用した、減塩で栄養バランスの整った献立の調理実習と栄養講話を行っています。

20～40 歳代の朝食欠食、野菜摂取不足といった課題解決のため、旬の地場産食材による減塩でバランスの整った献立の調理をすることで、自らや家族の食生活を振り返ることを目的としており、作って、味わって、実感できる実習は、生活習慣病の予防など、健康について考え、料理をすることへのきっかけとなっています。

成果

調理実習の指導や講話を行う食生活改善推進員は、若い世代の参加者との触れ合いから元気をもらい、食育活動の広がりに期待を寄せています。また、参加者の喜びから、会員の満足感や充実感が生まれ、さらに次回への使命感へとつながります。

作って食べて
おいしく健康



協働データ

担当部課：保健福祉部健康推進課

協働相手：食生活改善推進員協議会

協働形態：事業協力

市の役割：日程調整、参加者募集、栄養講話

協働のポイント

- ✓ 事業周知を積極的に行ってたくさんの参加者を募り、次へのやる気につなげる
- ✓ 満足感アップのための、よりおいしく、簡単にできる献立づくり

帯広まちなか歩行者天国

概要

帯広まちなか歩行者天国（オビヒロホコテン）は、6月下旬～9月上旬の毎週日曜日に帯広市内中心部の道路をさまざまなイベントを行う場所として、歩行者に開放しています。車社会の発達や、大型商業施設の郊外化などにより進む中心市街地の空洞化を打開するため、市民有志ボランティアが実行委員会を立ち上げ、平成18年からスタートしました。

成果

オビヒロホコテンは、帯広のまちなかで「にぎわいづくり・ひとづくり・まちづくり」を理念に年12回開催し、約11万人が来場されています。オビヒロホコテンが帯広市内中心部を開放し、ホコテンの理念に賛同いただける出店者の方々に、バリエーション豊かなイベントを実施していただくことで、多くの人々の来場を促し、老若男女問わず楽しむことができる交流の場を提供しています。

また、年齢、性別、肩書きなど関係なく、さまざまな人がボランティアとして運営に関わることで、人と人とのネットワーク構築にも大きく寄与しています。



帯広の中心で遊ぶ、集まる、盛り上がる！

協働データ

担当部課：商工観光部商業まちづくり課
協働相手：市民、商店街、商工会議所
協働形態：実行委員会
市の役割：実行委員会への参画とサポート

協働のポイント

- ☑ 継続実施に向けた、若いボランティアスタッフの募集や資金面の工夫
- ☑ 職業も年齢も多様な人々で構成される実行委員会

地域防災訓練

実災害を想定
した訓練を実施

概要 実際に災害が発生したという想定で、地域住民、防災関係機関が一体となり、連合町内会と共催で、住民参加型の防災訓練を実施しています。



成果 この訓練では、避難訓練や初期消火、応急手当などの訓練を実施し、災害に役立つ知識・技術を習得することで地域における自主防災組織活動の推進につながっています。平成29年度は、前年の台風災害を踏まえて、水害を想定し、建物の上層階に避難する垂直避難訓練や流れのある水の中を歩いてその危険性を体験する水害体験訓練を実施しました。



大規模な災害が発生した場合、国や自治体などの行政による対応には限界があり、地域住民による自主的な防災活動が必要不可欠です。過去の災害では、地震により、倒壊した家屋の下から「自力」で助かった人や「家族」に救助された人、「友人、隣人」に救助されたという人が圧倒的多数だったという事例があります。いざというときに備えるために、地域の防災活動に参加しましょう！

協働データ

担当部課：総務部総務課

協働相手：連合町内会

協働形態：共催

市の役割：防災訓練の実施、防災関係機関との

連携・協力

協働のポイント

- ☑ 参加者全員が、災害を「自分事」として捉える
- ☑ 本物の災害を想定したリアルな状況設定による、地域住民の意識向上

帯広を緑と花でつつむ花壇コンクール

概要 法人や町内会、商店街や学校、サークルなど、市内のさまざまな団体を対象とした事業で、道路植樹帯や公園、学校など公共の場所に花壇を造成することを条件にコンクールの参加団体を募集し、面積に応じて花苗を助成しています。市と実行委員会による共催事業として、花壇の総合美などを基準に審査し、受賞団体を決定します。

成果 この活動により、市民の憩いの場となる公共スペースでは、市民の手によって緑や花が創出されています。特に植樹帯の花壇造成は増加傾向で、市内の各所で彩りの増加に貢献しています。

団体ごとに協力して取り組むことから、花壇造りを通して地域の繋がりが強くなったという声が聞かれる一方で、参加団体となる町内会や老人クラブなどでは、高齢化により花壇の管理等が実施できなくなるといった課題もあるため、若い世代も取り込める工夫が必要となっています。



まちを花で
いっぱい！

1 きょうどうって
なに？

2 ハンドブックが
できるまで

3 協働の基本

4 協働・連携を
すすめるために

5 身近なヒント！
取り組み事例

おわりに

協働データ

担当部課：都市建設部みどりの課
協働相手：町内会、商店街、老人クラブ、企業、
学校等
協働形態：補助・助成
市の役割：参加団体の応募や花苗の助成など

協働のポイント

- ☑ 緑や花が増えることによるメリットをみんなが理解する
- ☑ 花壇造りや管理を、誰か一人に任せきりにしない

クリーン・キャンバス・21

どこよりも
美しいまち帯広

概要 道路や公園などの身近な公共スペースを美しく保つため、地域を養子に見立てて、子どもを育てるように愛情を持って地域美化を行うボランティア活動です。

成果 各自治体で罰則規定を盛り込んだ「ポイ捨て禁止条例」を制定しても、ごみの散乱には効果が上がらない現状があります。そこで、「自分たちのまちは自分たちの手で美しく」との思いから、地元企業や地域住民の力を原動力として行政がサポートする市民協働の仕組み「クリーン・キャンバス・21」を導入し、どこよりも美しいまちを目指しています。



10 か所以上のエリアで、周辺の企業等が計画的に清掃活動を実施しており、市民の意識の高まりから、年2回の全体清掃には多くの市民が参加しています。

活動エリア内のごみの散乱は減少しているものの、依然としてポイ捨ては後を絶たず、マナーの向上を目指し地道に活動を続ける必要があります。

協働データ

担当部課：市民環境部環境都市推進課
協働相手：企業、団体、市民、町内会
協働形態：実行委員会
市の役割：活動資金の援助、ごみの回収

協働のポイント

- ☑ 「自分たちのまちをきれいに」という共通目標を全員が意識する
- ☑ 自分たちの活動エリアに愛着を持ち、まちがきれいになることのメリットを理解する

動物園ボランティア事業

魅力あふれる
動物園づくり

概要 学生や社会人と協働し、広報活動やレクリエーション活動などを通じてサービスの向上や、魅力ある動物園づくりを目指す事業です。動物園の魅力度アップのため、帯広畜産大学の学生を中心としたボランティアグループが発足したことがきっかけでスタートしました。

成果 この活動により、園内マップの作成やホームページの開設が行われ、若い世代による新たな視点や発想、アイデアが得られるなど、サービスの向上が図られたほか、動物舎内の案内や監視活動により、動物への接し方や手洗いの励行など、利用者マナーの向上が図られ、動物や建物などへのいたずらや破壊行為への防止・抑止効果にも期待できます。

当初は大学生の卒業・退会による活動停滞が心配されましたが、後輩たちに引き継がれ、現在もボランティアサークルとして、さまざまな活動が活発に行われています。

協働データ

担当部課：生涯学習部動物園
協働相手：市民（大学生等）
協働形態：事業協力
市の役割：ボランティア活動に必要な指導や助言、情報提供

協働のポイント

- ☑ 動物園の魅力アップに向けた若者ならではのアイデアを尊重
- ☑ 動物園スタッフの協力により、ボランティア活動の定着

1 きょうどうってなに？

2 ハンドブックができるまで

3 協働の基本

4 協働・連携をすすめるために

5 身近なヒント！取り組み事例

おわりに

パートナーシップ除排雪事業

1,800km の
道のりを地域の
力で除雪

概要 町内会を対象として、除排雪に要した経費の一部を補助する事業です。

成果 市による除雪延長は約 1,800 キロメートルあり、これは帯広市から鹿児島県屋久島までの直線距離に相当します。厳しい冬を乗り切るに

は、市民と市が役割分担し、安心安全な道路交通を維持していく必要があります。

パートナーシップ除雪事業は、町内会と市が協働して除排雪を行うための仕組みとして、平成 16 年に施行されました。町内会が行う、①小型除雪機械購入事業、②小型除雪機械借上事業、③パートナーシップ排雪事業、④町内空き地利用事業の4つに対し、経費の一部を補助するものです。

また、平成 29 年度から「小型除雪機貸出制度」を施行し、ハンドガイド式除雪機の貸出しを行っています。これらを利用し、市による除排雪を町内会に補完していただくことで、住民満足度がより高まるといった効果が見られています。

町内会

補助申請、
除排雪実施



市

申請の審査・決定、
半額を助成
(上限あり)



協働データ

担当部課：都市建設部道路維持課

協働相手：町内会

協働形態：補助・助成

市の役割：除排雪にかかる経費の助成

協働のポイント

- ☑ 市民自ら実施することで、地域のニーズに合わせた除排雪が実現
- ☑ 実施する町内会等と、補助する市の明確な役割分担

コミュニティ施設の運営管理

概要 地域のコミュニティ活動を活発にするため整備されたコミュニティ施設を、市と、地域住民から組織された運営委員会とで共同管理しています。

コミセンをはじめとしたコミュニティ施設には、地域住民の利便性を考慮した弾力性のある開放的な運営方法が望ましいと、地域住民による自主的かつ効果的な運営が求められました。そのため、地域住民がボランティアとして参加する運営委員会を立ち上げ、施設の運営面で行政と協働しています。

成果 市は、コミュニティ施設への職員配置や電気・水道料、大規模修繕の費用負担、運営委員会は維持協力費の徴収や暖房、小規模修繕の費用負担と役割を分担し、施設の維持管理・運営を行なっています。この管理運営手法を取り入れることにより、地域の主体性を活かし、地域コミュニティ活動の拠点となっています。

53の施設を地域と共同管理



協働データ

担当部課：市民活動部市民活動推進課、
農政部農村振興課
協働相手：コミュニティ施設周辺住民、町内会
協働形態：事業協力
市の役割：人件費、電気・水道料、大規模修繕費、設備点検費用の負担

協働のポイント

- ☑ 近隣地域の市民による運営で、地域のニーズに合わせた柔軟な対応
- ☑ 運営委員会と、市の明確な役割分担

高齢者いきいきふれあい館「まちなか」の運営管理

高齢者の
居場所づくりを
サポート

概要 高齢者いきいきふれあい館「まちなか」は、高齢者がバスなどの公共交通機関を利用して中心市街地へ出かけ、運動や文化活動を通じてさまざまな方と交流することで、健康寿命の延伸や介護予防につなげることを目的とした施設です。

成果 市民と市、地域包括支援センタ

ーで構成された運営委員会により運営され、「まちなか」で実施する事業の企画・コーディネートなども運営委員会が担っています。



電話受付や広報活動、施設内での見守りや活動メニューのスケジュール管理など、「まちなか」の活動はすべてボランティアで行なわれており、さまざまなボランティアスタッフが協力し合いながら「おたがいさま」の気持ちで交流の輪を広げています。運営に携わるボランティアは随時募集しています。 1階のカフェは高齢者に限らずどなたでも利用でき、2階の活動スペースでは高齢者のための介護予防や認知症予防活動が展開されています。

協働データ

担当部課：保健福祉部高齢者福祉課
協働相手：市民、地域包括支援センター
協働形態：補助・助成、事業協力
市の役割：運営委員会への参画とサポート

協働のポイント

- ☑ 市民による運営で、地域のニーズに合わせた柔軟な対応
- ☑ 義務的・仕事的な負担感を抱えない、自由度の高いボランティア活動